

《東日本大震災で被災された皆様へ》

このたびの東日本大震災で、お亡くなりになられた方々に対しまして、心からのお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々には、心からのお見舞いを申し上げます。

## 交通信号工事士807人生まれる

過日実施された[交通信号工事士技能検定試験]の結果が発表され、既に実務経験の豊富な方が多数受験していただきましたおかげで、807の方が合格されまして誠にありがとうございます。

### ごあいさつ

#### 理事長 丹下 正彦



(元警察庁情報通信局長)

第1回[交通信号工事士技能検定試験]が6月に実施され、9月に合格発表がなされました。また10月には第1回[技術講習会]も開催され、当協会の重点施策が実質的に第1歩を踏み出すことになりました。これによって本年は、当協会の黎明期を脱して、これから本格的に事業を推進してゆく画期的な年であります。この[交通信号工事士技能検定試験]や[技術講習会]を通して、会社として、また個々の社員の方々も継続的に技能向上に向けた研鑽に努めていただくための支援方策になれば幸いです。何事も初めてというのは、相当な努力が必要で、これらの施策に積極的にご尽力いただきました関係者の方々に衷心より感謝申し上げます。

今後は、さらなる会員増強に努め、交通信号工事に携わる方々の技能向上を図るためのこれらの制度が末永く継続出来ますように、皆様方から一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 県警訪問

#### 理事長が東北6県警察本部を訪問

10月中旬、理事長は東北管内6県の警察本部を訪問し、当協会の設立趣旨である交通信号工事に携わる人の工事技術の向上、健全で魅力のある、誇りを持てる業界の育成に努めている活動を紹介し、当協会への理解を依頼してきました。

特に、業界団体として最も慎重に対応しなければならないコンプライアンス(法令遵守)については、業界団体としては極めて稀であるコンプライアンス規程を制定し、この規程を守るための活動を鋭意推進している旨を説明してきました。

会員の皆様方におかれましても、その趣旨をよくご理解いただき、健全な業界活動に努めていただきますようお願い申し上げます。

日本の交通信号工事業界の発展に向けて参考とするために、世界の交通信号工事を取り巻く状況を調査すべく、日本大学理工学部社会交通工学科准教授安井一彦氏を団長とする視察団が編成され、韓国ソウル市の視察が行われました。当協会も理事長や会員もこれに参加し、総員17名で実施されました。

韓国の交通システムは日本のシステムを手本として構築されていると言われておりますが、最近は大統領制のもとで、高速道路を撤去し、これに埋没していた川を復帰させたり、大規模なバス専用路線を整備して各バス会社の運行を総合的に管理するなど、多くの関連行政機関や民間会社が絡む業務を一元的に管理運用する仕組みが構築されております。研究機関も多くの優秀な研究者が学術的な研究を超えて、交通実態に直結したシステムの開発と整備に取り組んでおり、今後注目すべき交通システムが誕生するのではないかと思います。

また交通信号工事については、日本と同じような問題点や悩みを抱えており、当協会の活動に大きな興味を持っていただきました。今後も相互に交流を深め、情報交換しながら相互の業界発展に繋がる活動が出来れば望ましいと思います。

初日

平成23年9月4日、仁川へ。

ソウル市内のバス専用レーン等の交通状況視察

2日目

TOPIS(Transport Operation & Information Service  
ソウル市総合交通センター)の視察

TOPISの業務は、バス情報システム、交通カードシステム、無人取締りシステムの運用、交通放送、ソウル地方警察局、ソウル国土管理庁、韓国道路公社等から交通情報を収集し、ソウルの交通状況を統括管理し、市民に対し交通情報の提供を業務としています。

交通量の中で、バスの分担率は35%と高いが、運賃が低く抑えられているため赤字経営とのこと。市からの補助金でその赤字を補填しているのが現状であるとのことであった。

(社)道路交通安全施設協会との討議

(社)道路交通安全施設協会は、1995年8月に設立され、その設立目的は、道路交通安全施設の研究、開発、技術普及と安全で円滑な道路交通の確保により社会に貢献をすることである。

事業内容は、信号機、標識、標示等交通安全施設の設置である。

また、この協会は、ソウル警察庁の下部団体で立法発議権を有しており、現在「道路交通安全施設及び管理に関する法律」を上程中とのことであった。

3日目

ソウル市政開発研究院との討議

この研究院は、ソウル特別市直轄の組織でソウル都市・交通問題について、立案、計画、実施、評価まで一手に事業化できる権限を有している組織である。

現在、ソウル市内の交通環境を改善するため、信号機の右折感應改良、交差点のロータリー化への改良、車道を歩道に変更する車線構成の改良を中心とした事業を展開中とのことであった。

交通環境

計画的に道路が建設されており、立体交差が多い。

車線数が多く8車線も珍しくない。高速道路は原則無料

であるが、一部ロードプライシングを実施している区間がある。通行方法は、右側通行である。また、一方通行を多用している。交差点での右折(日本での左折)が赤信号でも可能である。その反面、左折禁止が多くその補完として、交差点の直前で転回可能となっている。そのため車両が信号交差点に集中し、渋滞に拍車をかけている。

ソウル都市交通インフラ視察を通じて

日本大学理工学部社会交通工学科 准教授 安井 一彦 談

今回の視察は、ソウル市の様々な交通改革事業を体験することができた、有意義な旅であったと考えています。市民の足として、公共交通機関であるバスを最優先に位置づけ、これを実現するために、バス中央走行レーンの設置、TOPISセンターでの情報収集・提供、駐車違反の自動取締りなど、この10年間でソウルの都市交通は飛躍的に改善されました。また、韓国道路安全施設協会やソウル市政開発研究院で、日韓専門家の交流も実現でき、これからも相互交流を深めていくことが重要であると感じました。短い期間でしたが、精力的に視察を行った会員の皆様に敬意を表します。



## 第1回講習会

平成23年度交通信号工事技術講習会が開催されました。

受講者は、会員会社の社員が対象となり、「交通信号施設工事に関する技術、技能の研修」が目的としております。また、『交通信号工事士』の資格を有した方の「5年以内定期講習受講義務」講習も兼ねており、5年に一度受講しないと交通信号工事士の資格が失効してしまいます。

今回の講習内容は、元小糸工業(株) 島田良一講師の「交通信号制御機の構成と機能性能について」と元三重県警察 倉田英郎講師の「交通信号制御の基礎知識」でした。

受講者からは、実際の制御機を使用し、具体的な取り扱いが説明されたり、交通安全や交通渋滞解消のために配慮されている交通システムなど、普段聞いたり、教えられていない内容が大変役立ったとの感想を頂きました。

来年度以降の講習会については、ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

会場		受講者数
東京 (社)日本倶楽部 東京都千代田区丸の内3-1-1	平成23年10月22日(土) 10時00分～16時20分	36名
長崎 長崎県勤労福祉会館 長崎県長崎市桜町9-6	平成23年10月26日(水) 13時00分～16時50分	38名
岡山 岡山県労働福祉事業会館 岡山市北区津島西坂1-4-18	平成23年10月27日(木) 13時00分～16時50分	31名
静岡 静岡労政会館 静岡市葵区黒金町5-1	平成23年10月28日(金) 13時00分～16時50分	31名



東京会場 理事長挨拶



長崎会場



岡山会場



静岡会場

## 会社訪問

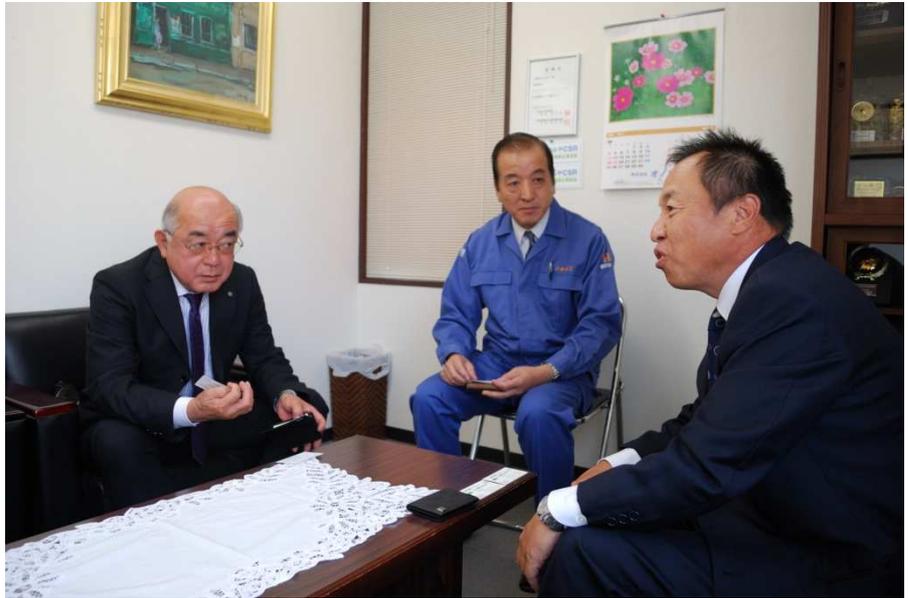
今月号から無作為に抽出した会社を訪問し、社長様等の雰囲気取材し、皆様に紹介する企画です。第一回目は、本社が栃木県宇都宮市にある三信電工株式会社と岩手県盛岡市にある岩手電工株式会社です。

三信電工株式会社  
代表取締役社長 福原洋

福原社長は、温かな人柄にもかかわらず、きらりと鋭く光り輝く瞳の奥に闘志を込めた御年67歳。

会社創業は昭和24年、現在の社長は五代目である。百貨店に勤務していた異色の経歴の持ち主。

協会に対しては、講習会等により技術の向上をより一層お願いしたいとのことでした。



三信電工福原社長

三信電工 高田取締役

古市広報委員長

岩手電工株式会社  
代表取締役社長 川村久史

岩手電工株式会社は昭和35年創業、信号工事業者としては岩手県トップクラス。

佐藤正男次長は現場に精通されており苦労話等をお伺いすることができました。

東日本大震災の復旧工事が膨大なため、頭が痛いのが現状であるとのことでした。

協会に対しては、コミュニケーションの場を設けて頂き、他の会員様との情報交換ができたので大変ありがたい。今後もより多くの機会を作って頂きたい。

また、有限会社渡辺電気 渡辺社長からは、技術、安全の向上に関する講習を願いたい、とのことでした。



渡辺電気渡辺社長

岩手電工佐藤次長

岩手電工 古市広報委員長  
滝沢営業本部長

## お問合せ先

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目21番4号  
一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局  
TEL: 03-3835-1740 FAX: 03-6675-4475  
URL: <http://www.tscta.jp> E-mail: [info@tscta.jp](mailto:info@tscta.jp)